

— 臨床 —

新潟中央病院整形外科入院患者の歯科受診の実態調査

大貫尚志^{1,2)}, 鶴巻 浩¹⁾, 黒川 亮²⁾, 勝見祐二²⁾¹⁾ 医療法人 仁愛会 新潟中央病院 歯科口腔外科 (主任: 鶴巻 浩 科長)²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面口腔外科学分野 (主任: 高木 律男 教授)

The investigation of the patients who consulted the Department of Dentistry and Oral Surgery during orthopedic hospitalization at Niigata Central Hospital

Hisashi Ohnuki^{1,2)}, Hiroshi Tsurumaki¹⁾, Akira Kurokawa²⁾, Yuji Katsumi²⁾¹⁾ *Department of Dentistry and Oral Surgery, Niigata Central Hospital (Chief: Dr. TSURUMAKI Hiroshi)*²⁾ *Division of Oral and Maxillofacial Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. TAKAGI Ritsuo)*

平成 26 年 10 月 8 日受付 平成 26 年 10 月 11 日受理

キーワード: 整形外科入院患者, 運動器疾患, 歯科治療, 高齢者

Key words: Orthopedic inpatient, Exercise device disease, Dental treatment, Elderly patient

Abstract

A total of 680 patients who consulted the Department of Dentistry and Oral Surgery during orthopedic hospitalization at Niigata Central Hospital between January 2007 and December 2012 are enrolled in this study. The purpose of this study is to clarify the demand for dental treatment among the patients who were hospitalized in an orthopedics department.

The results obtained were as follows:

1. The number of patients who consulted our department tended to increase every year, and the proportion of elderly patients showed the highest tendency to increase.
2. The majority (80%) of the patients requiring orthopedic hospitalization had bone fractures, back injuries and/or spinal cord disease.
3. The majority of patients (77.4%) had some systemic diseases.
4. Dental disease (35.3%), denture problems (25.9%) and periodontal disease (23.2%) were the most common problems, and were found in 84.4% of the patients who consulted our department.
5. Tooth extraction was the most frequent treatment, followed by denture treatment.
6. A total of 58.7% of the patients finished their dental treatment, and 21.6% of the patients were referred to another family dental clinic.
7. The main reason why these patients were referred to our department by the orthopedist was a close intraoral inspection before performing orthopedic surgery.

These results suggest that the overall oral hygiene status of orthopedic inpatients is generally poor, and the demand for dental treatment such as tooth extraction among such patients who are hospitalized in the orthopedic department is high. In addition to treatment of the underlying disease, it is important for the patients to maintain good oral health, and developing a system by which the Department of Dentistry could intervene in various inpatient situations would be helpful.

抄録

2007年1月から2012年12月までの6年間に新潟中央病院整形外科入院中で歯科口腔外科外来を受診した680名(男

性 341 名, 女性 339 名) について臨床的検討を行い, 以下の結果を得た。

1. 整形外科入院中の患者の歯科口腔外科受診者数は, 年々増加傾向を示し, 高齢者の占める割合が高くなる傾向がみられた。
2. 整形外科入院中患者の疾患内訳は骨折, 脊椎・脊髄疾患で 8 割を占めた。
3. 何らかの全身的既往歴を有している患者は 77.4% であった。
4. 歯科疾患分類では, 歯疾患が 35.3%, 喪失歯および補綴物適合不全が 25.9%, 歯周疾患が 23.2% の 3 つで 84.4% を占めた。
5. 処置内容は抜歯が最多で, 次いで義歯関係であった。
6. 転帰は治療終了が 58.7% で, かかりつけあるいは近歯科医への紹介が 21.6% であった。
7. 主治医からの紹介理由は, 全身麻酔前の口腔内精査が最も多かった。

以上より, 整形外科入院患者は歯科的対応を要するものが増加傾向にあり, 抜歯を必要とするなど比較的口腔環境の悪化している患者が多いことが示唆された。原疾患の治療遂行上, 口腔内環境を良好に保つことは重要であり, 積極的に介入すべきであると考えられた。

【緒 言】

わが国では 65 歳以上の高齢者人口は 2012 年 9 月現在総人口の 24.4% を占め¹⁾, 超高齢社会を迎えている。高齢者の増加に伴い, 骨折や脊椎疾患による神経障害, 変形性関節症による関節障害などの運動器疾患の増加に呼応して整形外科入院患者が増加傾向にある^{2,3)}。このような患者では, 脊椎や四肢の損傷および機能障害, 痺れや疼痛などにより車いすでの移動やベッド上安静など動作制限があるため, 介助を要したり, 全身ケアに比べ口腔ケアが後回しにされやすい。また, 巧緻性の低下などで自己での口腔内清掃が困難となりやすいため, 口腔内環境が悪化しやすい状態にある^{4,5)}とされる。一方で, ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 (BRONJ)^{6,7)} や人工関節置換術の術後感染と歯科処置との関連^{8,9)} など整形外科と歯科は近年益々密接な関係を持つようになり, 整形外科患者の口腔状態および必要とされる歯科的対応を知ることは重要であると思われる。

今回, われわれは整形外科入院患者の歯科的問題点や歯科治療の需要を探ることを目的に, 当院整形外科入院中に歯科口腔外科 (以下, 当科) を受診した患者の実態調査を行ったので報告する。

【対象および方法】

当院は, 整形外科を中心とした急性期病院で, 当科は常勤歯科医師 2 名, 常勤歯科衛生士 3 名で構成されている。当科では, 入院患者の口腔内トラブルに対し迅速に対応する方針とし, 対診依頼書なしでも適宜受診できるシステムを取っている。本研究では, 2007 年 1 月から 2012 年 12 月までの 6 年間に, 当院整形外科入院中に当科を受診した患者 680 名を対象とした。研究方法は, カルテをもとに後ろ向きに調査を行い, 臨床的に検討した。調査項目は, ①性・年齢別患者数, ②受診者数の推移, ③整形外科疾患分類, ④既往歴, ⑤歯科疾患分類, ⑥処

置内容, ⑦転帰, ⑧主治医からの紹介数と紹介理由, の 8 項目とした。なお, 複数の歯科疾患を有する症例では, 主訴に対する歯科疾患の診断を用いた。本研究では, 口腔ケア依頼のみの症例は含まれていない。

【結 果】

1. 性別・年齢別患者数および年別推移 (図 1, 2)

受診患者数は男性 341 名 (50.1%), 女性 339 名 (49.9%) の計 680 名で, 男女比は 1 : 1 であった。年齢は最低 4

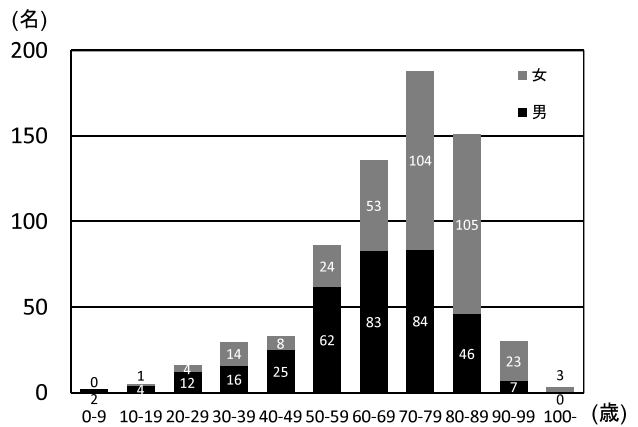


図 1 性別・年齢別患者数

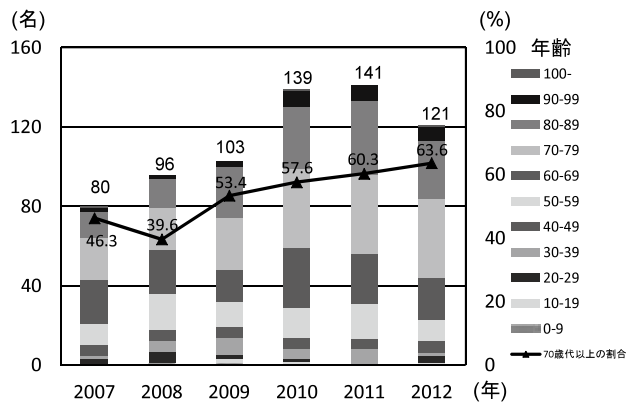


図 2 受診患者数の推移